

勝山市総合行政審議会（第11期第14回）結果概要

○開催日時 平成22年2月10日（木）午後1時～5時

○開催場所 市役所3階 第1会議室

○出席者

出席委員 10人

事務局 企画財政部未来創造課

1. 会長あいさつ

2. 審議

（1）第5次勝山市総合計画基本構想（案）および基本計画（案）について

【質疑応答】

～第3章－1－（1）～

●委員

- ・重点項目「中山間地域等直接支払事業の推進」について、国の政策による従来のものに加えて、独自の拡充を図ってほしい。

○事務局

- ・中山間地域等直接支払事業は集落機能維持の施策の一つと考えている。ご意見は担当課に伝え、計画推進の中で考慮したい。

～第3章－1－（2）、（3）～

●委員

- ・勝山型農業とはなにか。

○事務局

- ・中項目「農業の振興」の考え方の中で説明しているが、もっと分かりやすくしたい。

●委員

- ・「勝山型農業」について注釈を入れてはどうか。

○事務局

- ・分りました。

●委員

- ・「適切」「適正」や「図り」「図る」など文章にいろいろ出てくる。統一してほしい。

○事務局

- ・文章全体を精査する。

●委員

- ・農地の集約化とはどのような形態を考えているのか。

○事務局

- ・認定農業者などの事を考えている。農業の経営効率を上げていくことを想定している。

●委員

- ・施策指標にある農林水産物を活用した「かつやま逸品」とは、どういうものを指すのか。

○事務局

- ・かつやま逸品開発は、特産品開発、販路拡大の支援事業として今年度から開始している。今年度申請があったのはバラジャムなど。「かつやま逸品」について注釈を加えたい。

～第3章－1－（4）～

●委員

- ・重点項目「固定柵、ネット柵、電気柵等の整備」について、さびない柵、または永久固定柵の設置も検討してほしい。

○事務局

- ・事業推進の中で検討していきたい。また、雪の問題も考えていく必要があるので、その両立の中で、緩衝帯の導入も含めながら事業を進めたい。

●委員

- ・川の中州に有害鳥獣がいるのに、木を切らせてもらえない。切ったほうがいい。

○事務局

- ・県の管轄と考えるが、ご意見をまず市の担当課に伝える。

～第3章－2－（1）～

●委員

- ・雪害による立木への被害、林道への被害に対する助成も考えてほしい。

○事務局

- ・担当課に伝える。

●委員

- ・既設林道の修繕・改良とあるが、新設はないのか。整備についても入れたほうがいいのではないかと。

○事務局

- ・全体の重要度としては、既設林道への対応が高くなっている。市として当面は林道の新設はしないことになっている。新設しなくても対応できる状況になっている。ただし、作業道の整備は進めていく。

～第3章－2－（2）～

●委員

- ・森林公園の利用促進、環境整備を加えてほしい。

○事務局

- ・担当課と協議のうえで重点項目の中に書き込みたい。

●委員

- ・実のなる木とはどのような木か。ドングリのことか。

○事務局

- ・勝山市ではこれまで植樹のメインは針葉樹だった。最近のクマ出没騒動などから、クマなどの食料となるドングリとなるミズナラなどの広葉樹を考えている。
- ・民有林への実のなる木の植樹も促進したい。里地里山ではなく、奥山での植樹を想定している。

～第3章－3－（1）～

●委員

- ・アユ釣りだけ書いてあるが、アマゴやイワナなどはどうなのか。
- ・アマゴは放流もしている。

○事務局

- ・アユ以外の魚もいる。また、養殖もしているので、見える形で書き込む。

～第3章－4－（1）～

●委員

- ・市街地が空洞化していることに対する強調でよいのか。

○事務局

- ・そのとおり。恐竜博物館やスキージャムなど、周辺観光施設に来ている観光客を市街地に呼び込みたい。

●委員

- ・融資制度や助成制度はすでにある。これらさえ充実すれば市街地にお客さんが入ってくるというわけではない。重点項目の中で重要度としてはどうなのか。

○事務局

- ・ご指摘を受けて、重点項目の順番を入れ替えたい。

●委員

- ・事業所数の減少を抑制する具体的な施策が見えない。
- ・重点項目「商業施設の活性化に対する支援」にある、商業施設とはどこを想定しているのか。
- ・商店街の復活を掲げているが、商店街とはどこを想定しているのか。
- ・都市計画マスタープランにある土地利用との整合性を図ること。
- ・まちなかで何を見つけて楽しむのかがはっきり見えない。つながりが出来るものを作らないといけない。
- ・商業団体によるまちなか活性化事業は芽が出てきている。商店街の活性化よりも、元気がある商業経営の育成に力点を置く必要がある。

○事務局

- ・商業だけが活性化するのは難しい。観光の活性化と一体となって考えることが前提としてある。観光とからめながら商業の活性化を進めていく。観光戦略を核とした農商工連携、地域経済の活性化を考えている。ゆめお一れを一つの核としながら、元禄や本町などの中心市街地にどうやって誘客するのか、第3章全体の中で考えていきたい。
- ・商店街ではなく、積極的にまちづくりに取り組む商店への支援については、行政としては個別の商店への直接的支援は困難な面があるが、その趣旨を何らかの表現で落とし込めないか担当課と協議したい。

●委員

- ・若い人に日本一おいしい店を作ろう、魅力ある店を作ろうという心意気があれば、行政の支援がなくても努力をする。市内にも全国に誇れる魅力的な商品を作るお店がある。自助努力で勝山の人が行きたくなる魅力ある店をつくらないといけない。そこからまちができていくと思う。
- ・観光とセットにした仕掛けづくりが重要。点が何かによって線になる仕掛けづくりを考えていくことが大切。そういったことから、観光と商業がセットになったまちづくりが進んでいく。

○事務局

- ・市民の主体的な活動を支援することで、観光と商業のお互いに利得があるような状態を作

りたいと考えている。

- ・まちの魅力を高めることには、行政としては限界もある。基盤を整備し、きっかけづくりを支援することで、芽を育み、まち全体の活性化を図っていきたいと思っている。

～第3章－4－（2）～

●委員

- ・支援の具体的なものが見えない。

○事務局

- ・市としてできることが限られていることがある。

●委員

- ・新しい産業への誘導に力点を置いてほしい。
- ・10年後にどのような姿を想像して、これらの重点項目があるのか見えない。現状維持で一杯。後で測ろうと思っても測りにくい。

○事務局

- ・小規模企業を視野に入れながら考えている。大きな企業の動向は、経営方針や経済状況に左右されるので勝山市として指標設定が難しい。
- ・やる気のある店舗への支援や地元企業への支援の具体的な部分は施策として難しい。行政として決めて進めることがなかなかできない。産業振興懇話会などを通じて適宜進めていく。

●委員

- ・地元企業が元気でないと、勝山に戻ってきても、働く場がないということになるので、しっかりと考えてほしい。

～第3章－4－（3）～

●委員

- ・重点項目「空き店舗、空き工場」に並列で「インキュベート施設」を書くのはどうか。

○事務局

- ・分けて表記したい。

～第3章－4－（4）～

●委員

- ・重点項目「市外へ向けての企業誘致」という表現が分かりにくい。

●委員

- ・市外の企業に向けてのという意味。

●委員

- ・市外に出たいと考えている企業をとどめ置くことも企業誘致の一つ。
- ・市外から企業を持ってくるという強い気持ちを表に出すべきではないか。

○事務局

- ・こうした経済状況の中でも、国内で企業誘致を成功させているところがあるので、研究をして実績につなげたいと考えている。

●委員

- ・市外からの企業誘致だけでなく、地元企業への支援による、または新規起業家による雇用の増加も考えてはどうか。

○事務局

- ・担当課に伝える。

●委員

- ・勝山市は賃金レベルが低い。企業にとっては魅力があることになる。安い賃金で人が集まっているのか気になる。都会との差がありすぎて、若者が勝山で働こうと思うか不安。賃金格差に対する行政としての取り組みはあるのか。

●委員

- ・行政が賃金格差を埋めるのは難しい。企業側の努力になる。
- ・条件にもよるが新規雇用を求めてもなかなか集まらない。若い方が少ない。欲しい人材と仕事を求めている方とのギャップがある。地元企業の元気がなくなっているの、県外に進学した学生が戻ってきても仕事が少ない状況にある。賃金格差はあるが、都会とは生活環境が違うので仕方がない。全体的に元気にしていくことが大切。

○事務局

- ・なんとか打破したいという気持ちはある。

●委員

- ・生半可な考え方では企業誘致はできない。しっかりとしたコンセプトを持って企業誘致に取り組んでほしい。
- ・既存の地元企業が影響を受けないような企業誘致をお願いしたい。

～第3章－5－（1）、（2）～

●委員

- ・参考として宮崎県日南市飴肥（おび）では、まちおこしが進んでいる。チケットを使ってまちなかを歩いてもらう仕組みづくりができています。登録することで商店に観光客が足を運んでくれる。

●委員

- ・飴肥は小京都で、おび天という名物がある。まちそのものにもともと観光資源がある。チケットを利用してあちこちの商店に足を運んでくれる仕組みは、えち鉄のサポーターズクラブの一種のようなもの。勝山市とはちょっと事情が違う。

●委員

- ・チケットに商店の目玉商品が書いてある。いかにお客さんに足を運んでもらえるか考えることは、店主のスキルアップにつながる。店主一人ひとりの企業努力が自然と培われるような仕組みがある。
- ・企業誘致とまちなか誘客は商売的には観点が違うので、両方は難しい。

●委員

- ・具体的な政策推進の中で考慮してほしい。
- ・重点項目の数が多い。もう少し整理できないか。
- ・門前町の活性化が進められているが、越前大仏の今後の見通しについて、公売の件も含めて書き込んでおくべきではないか。

○事務局

- ・ジオパーク関連項目について、重点項目の整理をしたい。
- ・（2）の重点項目で越前大仏について少し触れているが、検討してしっかりと書き込みたい。

●委員

- ・今後の、観光プロデューサーのコーディネートにより、何を中心としてどういう手法でどのように進めていくのか出てくることになる。重点項目に「観光プロデューサーの設置」とあるが、設置＝ゴールではない。その役割は観光と商業を繋げる仕組みづくりや、担い

手の育成を図ることだと思う。

○事務局

- ・最近勝山の魅力を理解して、活動をしているかたが増えてきた。こういったまちづくりの成果を観光に活かしていきたい。それが地域経済の活性化につながると考えている。重点項目をしっかりと整理したい。

～第3章－5－（3）、（4）～

●委員

- ・道の駅について、ハード整備の準備に入ることを述べている。「休憩機能・情報発信機能・地域振興施設」の3つの機能はゆめお一れを中心として進めていくものと思っていた。

○事務局

- ・ゆめお一れが道の駅であるとの考えや、越前大仏、恐竜博物館へ至る道沿いなどさまざまな意見、アイデアが出ている。まだ整理されていないので、早急に整理検討をしていきたいと考えている。

●委員

- ・観光営業の強化とあるが、土台がないと無理。しっかりした施設がないと、観光の誘客も宿泊者の増加もできない。

○事務局

- ・体制全体の事を含めて観光営業の強化を考えている。農業体験も含めて一体として考えている。農商工連携による着地型観光の推進をうたっているので、観光振興ビジョンとの整合性も含めて整理を図りたい。

●委員

- ・4つの広域観光があるが、全て実際に枠組みとしてあるものなのか。4つの違いがよく分からない。

●委員

- ・もともとは勝山と大野で奥越前広域があった。だんだんと広がっていった。

●委員

- ・重点項目「広域観光推進による市内での宿泊者増加」とあるが増加できるのか。

●委員

- ・宿泊施設もどんどん減っており、民宿等への宿泊者も減っている。ここでは、農家民宿などのツーリズムによる宿泊者も含めていると聞いている。

○事務局

- ・日帰り宿泊では勝山への経済効果にかなりの差ができる。どこかで宿泊するなら勝山で宿泊してほしいと考えている。

～第4章－1－（1）～

●委員

- ・どこまで勝山市として担保していくのか。地域全部を対象としているのか。都市構成や土地利用についても考える必要がある。

～第4章－1－（2）～

●委員

- ・重点項目「企業立地を誘導する土地利用」とは、市が新たに造成するという意味か。

○事務局

- ・新たに企業団地を作るわけではない。勝山インターからのアクセスを考えたときに、使える土地があるので、そういった土地の利用を考えている。詳しくは都市計画マスタープランで検討しているので、整合性を図りたい。

●委員

- ・広域的に他市機能を活用する道路整備を行うためには、他市町に対しての要請も必要になる。

○事務局

- ・国県道の整備に関する表記の中に、周辺自治体との連携という視点を書き込みたい。

●委員

- ・国道157号、416号は地域幹線道路ではないのか。これらも幹線道路といえるのではないか。
- ・都市計画の面から言うと、「地域幹線道路」という呼び方はない。「主要幹線道路」ならある。

○事務局

- ・「地域における幹線道路」と修正する。

～第4章-1-(3)、(4)～

●委員

- ・ハード面の話ばかりで、活用面についてあまり触れていない。作るだけでなく活用する、ソフトを充実させるような項目を盛り込んでほしい。

○事務局

- ・かつやま恐竜の森や中央公園などの整備にあたっては必要な視点であるので、活用面が前面に出るように文章を精査したい。

●委員

- ・大蓮寺川改修工事は10年で終わるのか。

○事務局

- ・県の事業であるが、新たな工法による整備計画が示されているので、今後、一段階ずつ進めていくことになる。

～第4章-1-(5)～

●委員

- ・例えばまちなかの融雪装置など、住環境の整備は進んでいると思う。あとはここに賑わいの創出が必要。
- ・市内のお店のデータを一元的に情報提供できる仕組みがあるといい。観光協会が担ってくれればと思う。
- ・観光協会ではホームページをリニューアルするなどシステム整備は概ねできている。ただ、情報提供元の利用者が少ないのが現状。

○事務局

- ・今後、農商工連携をしながら観光に力を入れていくためにも、全体の営業力、プロデュース力、ワンストップサービスの充実を図るとともに、やる気のある事業者が伸びるような仕組み作りをしていく必要があると考えている。

●委員

- ・重点項目「中心市街地の形成とにぎわいのネットワークづくり」は観光にも似たような表現がある。

- ・施策指標「観光ガイドボランティアガイド」については、観光に入れるものではないか。
- ・施策指標「えちぜん鉄道の年間乗降客数」と「年間利用者数」についても同様。

○事務局

- ・しっかりとハードとソフトを区分けしたい。また、えちぜん鉄道に関する施策指標についても、この場所でよいのかどうかしっかりと精査したい。

～第4章－2－（1）、（2）～

●委員

- ・バスについては空っぽで走ることにならないよう、助成の見直しをしてほしい。
- ・恐竜バスと市内バスが同時刻に勝山駅を発車している。非常に効率が悪いと感じる。恐竜バスも市民が利用できるような体系にできないか。

○事務局

- ・基本的にはえちぜん鉄道の到着時刻に合わせている。同時刻に発車ということについては、行き先などは違うものと思うが時間表を確認したい。

●委員

- ・新交通システム的一种であるコンビニクルについて考えているのか。

●委員

- ・広い意味ではデマンドバスを含めて新交通システムと呼んでいる。基本的な考え方に記載がある。

○事務局

- ・現行のバス運行システムがベストなのか検討している。少子高齢化が進み交通弱者が増える中で、完全デマンドもしくは一部デマンドへの移行は必須であると考えている。

●委員

- ・高齢化が進んでも、バス利用者は増えない。高齢の運転者が増えるだけ。「バス利用者が減ってもバス体系を維持していく」ことを明記してほしい。

○事務局

- ・高齢化率がますます上がっていく中で、高齢者の運転免許証返納も増えてきている。しっかりとした利用しやすい交通システムがあれば、高齢者が公共交通を活用してもらえると考えている。

●委員

- ・免許証返納をする人は少ないと思う。

○事務局

- ・返納者にはバスの3年間無料チケットを渡している。また、住基カードの無料化もある。

●委員

- ・利用者が少ない場合には、効率を考えて廃線になるのではないかという心配がある。

○事務局

- ・そうならないように、デマンドバスなどで対応したい。

●委員

- ・免許返納者への無料バス券の有効期限を3年ではなく永久にしたほうがよい。

○事務局

- ・担当課に伝える

～第4章－3－（1）～

●委員

- ・環境と景観は言葉はよく似ているが、異質のもの。並列にするのはどうか。

○事務局

- ・環境に配慮したまち、景観に配慮したまちをまとめたものと考えている。

～第4章－3－（2）～

●委員

- ・重点項目の書き方が他の項目と違う。様式として異質に感じる。

○事務局

- ・重点項目を2段階に分けて記入している。担当課の思いをそのまま反映させた結果。違和感のないように工夫をしたい。

～第4章－3－（3）、（4）～

●委員

- ・歴史的まちなみ景観創出事業補助金の指標設定が、平成27年では現状より下がって、平成32年には上がっている。設定としておかしいのではないか。

○事務局

- ・対象となるものが限定された事業のため、現状にあるペースでの申請は難しく、少し落ち着くものと見ている。
- ・施策指標にある平成32年の欄の数値は、10か年の累計を表記している。

●委員

- ・施策指標「景観に関する地域のルールづくり箇所数」について、箇所数ではなく面積で出したほうがよいのではないか。

○事務局

- ・平泉寺や中心市街地を想定しているので、その面積は出せると思う。意識の高まった地区を増やしたいと考えているが、3箇所目以降については未定なので面積を出すのは難しい。

●委員

- ・平成27年度の目標にある3地区は決まっているのか。

○事務局

- ・平泉寺と市街地の2か所は想定している。3か所目は意識の高まりを受けて、区域が広がるのか、新規の地区が出てくるのか未定。

●委員

- ・大規模行為とはどういったものをいうのか。
- ・風致地区はないのか。

○事務局

- ・大規模行為届け出制度とは、工作物についてはのべ500㎡以上、高さ12m以上のもの。土地の形質変更は、例えば土砂採掘は1000㎡以上、資材置き場は500㎡以上のものを設置する場合は届け出を行う必要がある。届け出の際に、景観計画に基づいた土砂採掘後の緑化や資材置き場の遮蔽措置、景観に配慮した色合いなどの指導助言を行っている。
- ・風致地区は設定していない。

●委員

- ・大規模行為の届け出制度の根拠法令等を入れてはどうか。

○事務局

- ・調べて入れ込みたい。

～第4章－4－（1）～

●委員

- ・勝山の建物は全国平均と比べると断熱性が悪い。サッシも一重のものが多い。だんだん増えているが、古い家が多い勝山ではペアサッシ率が低い。壁や天井、床に断熱材が入っていない家も多い。住環境を良くすると、もっと冬を過ごしやすくなる。国や県も補助制度を実施しているが、勝山独自に断熱仕様を進める施策ができるとうい。建築業者の活性化にもつながる。高齢化が進むので、寒暖の差を防ぐような手立てを考えてほしい。

○事務局

- ・「夏をもって棟とする」という考えが基本にあり、冷暖房に対応した作りになっていない住宅が多い。今後の視点として、高齢化も踏まえながら担当課と相談したい。
- ・平成23年度当初予算案で、国・県のリフォームエコポイント制度を活用した場合に、国・県の助成対象外の部分に、市として追加助成することを研究している。

～第4章－4－（2）、（3）、（4）～

●委員

- ・平成32年までに年々高齢化していく。除排雪をスムーズに行うためにも市民共助との関係をしっかりと書き込む必要がある。

○事務局

- ・市民アンケートの中で、雪は勝山が嫌いな要因の第1位となっている。第7章3.「雪などの災害に強いコミュニティづくり」で、共助も含めた全体的な体制を取りたいと考えている。第4章では、公助による機械除雪を中心とした社会資本の整備や生活環境の整備をおさえ、全体的なものは第7章でカバーしていきたい。

●委員

- ・道路のことばかりが記入されている。高齢者が増える中、屋根雪への対応が課題となっている。

○事務局

- ・第7章3. <自助による除雪に対する支援>の中で、高齢者世帯等の除雪に対する支援を考えているので、ここで対応したい。

●委員

- ・4-4の流れとして、住環境から除雪体制に移るので、住宅も道路も一緒に考えてしまう。
- ・（1）基本的な考え方に、屋根融雪設備設置事業における設備の更新に対する助成について触れているので、ここで膨らませられないか。

○事務局

- ・道路の除雪とともに住宅の屋根雪下ろしや住宅周りの除雪も重要。「（2）除雪体制の確立」の中の「市民共助による除雪の検討」の部分を膨らませて記載したい。

●委員

- ・今現在でも市民共助は難しい。高齢化が進むので、これからはさらに難しくなる。

○事務局

- ・そのことも含めて検討したい。

●委員

- ・総務課で業者の紹介を行っているが、除雪の相場も業者によってまちまちで、担当者も分からない。業者の言い値になっているのは大きな問題だと思う。行政として指針を示すべきではないか。
- ・いつ雪下ろしをしていいのか、タイミングも分からない。雪の状況や建物によって違うと

思うので、建築レベルで判断が出来る人を立ててはどうか。市としてしっかりと支援する仕組みづくりができないか。

●委員

- ・同じような話で耐震がある。診断士が判断するが個々の建物で違う。専門家でも各建物の雪下ろしのタイミングを判断し、助言することは難しいと思う。

●委員

- ・近所の方の話を聞けば、ほとんど間違いない。
- ・値段は地域や雪の状況によって変わってくる。一概にいくらという基準を示すのは難しい。

●委員

- ・基本的なコミュニティの確立が大事。雪の事も含めて地域力という部分で共助をしっかりと行うことは必要。今後の高齢化社会に対応した除雪体制を目指してほしい。

○事務局

- ・雪の問題が一番大きな問題だと思っている。共助が難しい中で、共助がないと今後の高齢者が増えた地域を支えられない。共助を公助がどうやって支えるのか、自助を公助がどうやって支えるのか。地域力の向上、市民力の向上を目指す中で、雪害に対して安心して暮らせるまちづくりは、総合計画の中で大きな柱だと思っている。

～第5章－1－（1）～

●委員

- ・市の学校再編についての考え方は、施策指標にあるとおりでいいのか。

○事務局

- ・座談会などで市民に説明した内容と変わっていない。第7章4.「各地区の公共施設の再編」の中で、これまでの考え方について詳しく書き込んでいる。

●委員

- ・学校再編はいつ終わる予定なのか。

○事務局

- ・遅くても平成27年度までには各校区で検討委員会を設置してもらい、その中で再編に加わるのかどうか結論を出していただきたいと思っている。ある地区では検討委員会設置に向けて動き始めている。地域と行政とのキャッチボールの中で、現在はボールを地域に投げた状態なので、地域ごとに総意を取りまとめてほしいと考えている。

●委員

- ・地域との合意形成までに最長10年もかかるのか。

●委員

- ・それだけ地域の意見が強い。

●委員

- ・再編の合意がされた地区から再編に加わることになる。再編に加わらないことを選択する地区も出てくる。そうすると、小人数でも学校を存続させることになる。

○事務局

- ・小学校は地域の意見を最大限尊重する。中学校は最終的に1校を目指しながら、もし出生数が上向くなどの要因があれば暫定的な2校がそのまま存続することもありえる。

●委員

- ・重点項目「時代に即したICT環境の整備と教育用コンテンツ等の整備」というのは、市が独自に教育用ソフトを作るということか。

○事務局

- ・市オリジナルのものを作るわけではない。購入、リースを考えている。
- ・電子黒板等の活用のためのソフトも含めている。

～第5章－1－（2）、（3）～

●委員

- ・意見なし

～第5章－2－（1）、（2）～

●委員

- ・平泉寺のガイダンス施設と周辺整備の中で、塀や門の復元をしようとしているが、市民としても期待している。それが周辺整備の中に入っているとしたら、少し弱いように思う。

○事務局

- ・周辺整備に含んでいる。一乗谷朝倉氏遺跡をイメージしている。

●委員

- ・防火設備の整備についても書き込んでほしい。消火栓もない。

○事務局

- ・白山平泉寺旧境内の周辺整備を進める中で対応したい。

●委員

- ・平泉寺の発掘現場周辺のアピールが足りない。あまりよく知られていない。

○事務局

- ・現在、5か年計画で平泉寺旧境内総合整備事業を進めており、今年は3年目にあたる。4年目となる平成23年度には、ガイダンス施設、門・土塀の歴史的建造物の復元などを実施する。この総合整備事業が完了すれば、白山神社と発掘現場を一体としたPRをより効果的に進めることができると考えている。

～第5章－3－（1）、（2）～

●委員

- ・市民大学とさわやか大学の2本立てになっている。この2つは対象者が違うのでどうしても統一できないと聞いたことがある。新たに市民総合大学を創設するのか。

○事務局

- ・市民大学とさわやか大学を発展的に統合させ、より市民が参加しやすい大学「市民総合大学」の開校を目指す。開校は平成27年を目標としており、それまでは両大学を発展させ、統合に備えることになる。

～第5章－3－（3）～

○事務局

- ・ジオパークの部分の重点項目は整理をして修正する。

～第5章－3－（4）～

●委員

- ・重点項目の「持ち込みPC用コーナーの設置」などは細かすぎるので、「施設・設備の整備、充実」の中に含めてもよいのではないか。

○事務局

- ・項目を絞れないか担当課と相談したい。

～第5章－4－（1）、（2）～

●委員

- ・意見なし

～第5章－5－（1）～

●委員

- ・3では「生き生き」、5では「生き活き」となっている。違いが分からない。ここまでこだわる必要はない。「生き生き」に統一したほうがよい。こだわりがあるのかもしれないが、市民が混乱しないようにしてほしい。

○事務局

- ・生涯学習は「生き生き」で、スポーツは活動で「生き活き」と掛けている。ご意見は担当課に伝える。

●委員

- ・気軽にスポーツに参加する機運の盛り上げと、競技力の向上は別のもの。

○事務局

- ・基本的な考え方の中で、生涯スポーツと競技スポーツを分けて記載したい。

～第5章－5－（2）、（3）～

●委員

- ・クレ射撃場は閉鎖しているが、国体になれば開かれるのか。
- ・開かれないと、国体でクレ射撃競技ができない。

○事務局

- ・クレ射撃場は県の施設である。再開すれば、また銃弾の鉛除去に多額の費用がかかるということで、県としては再開に慎重な姿勢でいる。勝山市としては、国体でのクレ射撃競技を県内で実施するのならこの施設しかないなので、早期に再開するよう県に要請している。
- ・鳥獣害対策の一環で猟銃射撃の訓練用としても活用できると考えている。

●委員

- ・福井国体でのバドミントン競技の開催地は決まったのか。

○事務局

- ・平成24年度に決定予定。

～第6章～

●委員

- ・事務局に一任

～第7章～

●委員

- ・なぜ北谷地区を特化しているのか。

○事務局

- ・現在、北谷地区は住民が諦めを持つほど経済的にも社会的にも疲弊してしまった。北谷地区への生活レベルでの支援が立ち遅れたしまったとの反省に立って、その部分をカバーしたいと考えている。

●委員

- ・今後10年で北谷の人口は今の半分になると聞いた。これで大丈夫なのか。

○事務局

- ・総合計画は10年の計画であるが、北谷のプロジェクトは平成27年度までの5か年で先行して集中的に実施する予定。

●委員

- ・2.「持続可能な基礎的コミュニティづくり」に、市街地の空洞化を提起してほしい。
- ・「各区（集落など）」「集落など区」という表現では市街地を想像しにくい。
- ・旧勝山町については、行政区を超えた連携という枠組みも含めて考えてほしい。

○事務局

- ・旧勝山町について、旧村とは違う独自の活性化の方向性、コミュニティのあり方をしっかりと落とし込んでいく。

3. その他

答申 2月18日（金）10時30分

以上